

# 教育研究業績書

2025年10月20日

所属：看護学科

資格：講師

氏名：野寄 亜矢子

研究分野	研究内容のキーワード	
看護教育	看護師の自律的・継続的な学び、自己教育性、継続教育 シミュレーション教育	
学位	最終学歴 武庫川女子大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 看護アセスメント演習	2024年9月～現在	看護アセスメント演習での科目責任者として、科目的に応じて学生の主体的な学びを促進できるように授業設計を行い、事例を交えながらのアクティブラーニングを行っている。
2. 基礎看護技術習得のための自己学習へのサポート	2022年9月～現在	武庫川女子大学看護学部専門教育科目「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」「基礎看護技術演習Ⅲ」において、学生が看護技術を習得するために、学内実習室での自己学習をサポートした。
3. 基礎看護技術演習での演習担当	2022年4月～現在	武庫川女子大学看護学部専門教育科目「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」「基礎看護技術演習Ⅲ」の担当単元において担当した演習において、学生の技術取得が促進するように講義スライドや動画を作成し、演習に活用した。また、演習では根拠を重視した授業展開を工夫した。また、自身の看護師経験談を語ることで、初学者である学生の想像力を高められるように支援した。
4. 統合実習および基礎看護学実習における実習指導ならびに実習調整	2022年4月～現在	武庫川女子大学看護学部専門教育科目「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「統合実習」において、これまでの教員経験を活かし実習指導および実習施設との打ち合わせを行った。基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱでは、実習目標を達成できるようにサポートすると同時に、病院実習の経験がほとんどない学生に対し精神支援を行うと同時に看護師としての社会人基礎力も身につくことができるよう学生の支援を行った。
5. 周手術期・クリティカルケア看護学実習での遠隔実習および学内演習	2020年6月～2022年3月	神戸市看護大学3回生を対象として新型コロナウイルス感染症感染拡大のために臨地実習が困難となったことから、周手術期・クリティカルケア看護学実習の実習目標を到達するために、より病院施設に近い学習環境を整えるために模擬カルテを開発・作成したり、シミュレーション教育のスキルを活用して患者役・実習指導者役・教員の3役をこなしながらリアルシミュレーションを実施した。
6. クリティカルケア論における輸液管理の講義・演習	2020年6月～2021年7月	神戸市看護大学3回生を対象に開講されるクリティカルケア論の輸液管理に関する講義および演習を担当した。講義は輸液管理に関する基礎知識や管理方法、輸液ポンプやシリジンポンプの使用方法について解説した。講義で解説した内容をもとに輸液管理の方法について、滴下調整・各種ポンプの使用方法について現物を用いた演習を企画し、実践した。学生全員が物品に触れ、輸液セットや各種ポンプの構造を理解することができるとともに、学生が輸液管理において患者の安全・安楽を考えることが出来るよう振り返りを行ながら演習組み立てた。
7. 感染看護論における職業感染防止対策と日常ケアと感染予防に関する講義	2020年6月～2021年6月	神戸市看護大学3回生を対象に開講される感染看護論において「職業感染防止対策」と「日常ケアと感染予防」に関する講義を担当した。これまでの臨床看護師としての経験をふまえて、講義資料を作成し臨床で遭遇する感染症における感染予防対策について講義を

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
8.周手術期看護論での周手術期における患者の看護過程の展開の講義	2019年11月～2022年3月	行つた。 神戸市看護大学 2回生を対象に開講される周手術期看護論において、周手術期における患者の看護過程の展開についてゴードンのアセスメントツールを用いての情報収集およびアセスメントのポイントや看護問題の抽出および計画立案について 3回生での周手術期看護学実習で活用できるように講義を行つた。
9.周手術期・クリティカルケア看護学実習での実習指導	2018年9月～2022年3月	神戸市看護大学 急性期看護学分野の助教として周手術期・クリティカルケア看護学実習を担当した。学生個々の傾向を早い段階から捉えるように心がけ、学生個々に応じた実習指導を展開した。
10.研究演習での学生指導	2018年4月～2022年3月	神戸市看護大学 4回生を対象に開講される研究演習を担当し、生が興味を持っている研究テーマについて文献検討を行いながら、臨床でも看護研究が継続できるように看護研究の方法について提示し、看護研究を行う意義について学生が学びを得られるように研究計画書作成までを支援した。
11.健康生活支援学実習での実習指導	2018年2月～2022年3月	神戸市看護大学 2回生を対象に開講される健康生活支援学実習において、看護系分野の助教として実習を担当した。地域に暮らす教育ボランティアの方々を対象に対象理解を深め、その地域で生活する人々の健康観について触れながら人と関わる力を養うこと・価値の多様性を知ることが今後の看護にどのように活かされるのか、これまでの臨床看護師の経験もふまえながら実習目標が到達できるように指導を行つた。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1.周手術期看護学オンライン実習で活用する模擬カルテの作成	2020年6月～2022年1月	神戸市看護大学において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い臨地実習実習が困難となったことから臨地実習と同等の実習目標が到達できるように、Excelを駆使して模擬カルテを作成した。さらに、大学が契約した教育用カルテに周手術期看護学実習で実習する施設・病棟で遭遇する疾患に応じた模擬カルテも作成した。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1.武庫川女子大学看護学部 国試対策委員会 2.武庫川女子大学看護学部 看護自己評価点検委員会	2024年4月～現在 2023年4月～現在	看護自己評価点検委員会として、看護学部・研究科の委員会・担当等の活動評価に関する取りまとめをおこなっている。
3.武庫川女子大学看護学部 広報委員会	2022年4月～2024年3月	広報委員としてオープンキャンパスの運営、高校生への見学案内など、広報委員の一員として活動した。
4.神戸市看護大学 職員安全衛生委員会	2021年4月～2022年3月	職員安全衛生委員として、特に助教の労務管理やストレスマネジメントについて調査を行い働きやすい職場の環境の調整を実施した。
5.神戸市看護大学 まちの保健室運営委員	2020年4月～2022年3月	まちの保健室運営委員として、企画・運営に携わり年1回、分野の特徴を活かした講義・演習を地域住民に向けて実施した。
6.神戸市看護大学 教務委員会 実習部会委員	2020年4月～2022年3月	神戸市看護大学 教務委員会 実習部会委員として学生の実習ローテーション配置の作成、総合実習に関する調整および学生向けの全体オリエンテーション、実習部会が主催するFD研修および臨地実習施設との調整を担当した。
<b>4 その他</b>		
1.医療IDセミナー2023 (JSISH) 2.FUN-Sim-J 修了 3.ELNEC-J コアカリキュラム研修 修了	2023年9月 2018年8月 2019年9月	日本医療教授システム学会が主催する医療IDセミナー授業設計編を1日受講 ハワイ大学 SimTiki シミュレーションセンター主催 指導者向け入門コース Fundamental Simulation Instructional Methods For Japanese 2日間受講 大阪府看護協会主催 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育用プログラム研修 2日間受講

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 看護師免許	2001年4月19日	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 臨床実習指導者としての役割に従事	2015年4月～2018年3月	勤務している病院施設にて教育担当主任看護師として病棟内の基礎看護学実習・成人看護学実習を病棟内の実習指導者とともに学生の実習指導担当として従事した。
2. 看護過程に関する院内研修の企画運営	2013年4月～2018年3月	看護部記録委員副委員長として院内の看護過程の充実を図るために院内研修を通して看護過程の教育に従事した。
3. 看護師の継続看護教育に従事	2009年4月～2018年3月	新人教育制度導入に伴い、新人看護師研修企画を立案し新人看護師が病棟での実践に活かせるように救急外来と放射線科での研修を行った。また放射線科における中途採用者に対しての継続教育のための指導計画書、チェックリストの作成を行い、実施した。さらに、院内ラダー制度の取得研修計画の一部を担当した。
<b>4 その他</b>		
1. 武庫川女子大学 看護学部 まちの保健室プロジェクトメンバー	2023年4月1日～現在	
2. 武庫川女子大学 看護学部 クリニカルスキルラボプロジェクトメンバー	2022年4月1日～現在	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. 看護師の自己教育性尺度の開発と看護師の自己教育性に関連する要因の検討	単	2023年3月	武庫川女子大学 大学院看護学研究科 (博士後期課程)	<p>本研究は看護師の自己教育性の構成概念を明らかにし、看護師の自己教育性尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検証し、開発した尺度の得点分布を可視化と看護師の自己教育性と関連する要因を明らかにすることを目的とした。</p> <p>看護師の自己教育性の概念分析を行い、看護師の自己教育性の5つの属性に基づき85項目の尺度原案を作成し、看護教育専門家による内容妥当性、表面妥当性の検討から62項目の修正版尺度原案を作成した。尺度の信頼性・妥当性の検討を全国の300床以上の急性期病院22施設の看護師1,080名を対象に修正版尺度原案を用いて質問紙調査を実施した（第一次調査）。416名の回答があり（有効回答率35.3%）、探索的因子分析により3因子27項目の看護師の自己教育性尺度を作成した。同一データを用いて、確認的因子分析を行い、モデル適合度を確認した。基準関連妥当性の検討により外的基準として設定した4つの指標でも有意に高い結果が示しされ、尺度の妥当性を確認した。Cronbach's <math>\alpha</math>係数の算出と再テスト法により高い信頼性も確保した。開発した尺度を用い全国の300床以上の急性期病院78施設の看護師5,636名を対象に質問紙調査を実施し、看護師の自己教育性尺度の得点分布を確認し、同一データを用いて関連要因の検討を行った（第二次全国調査）。1,510名の回答があった（有効回答率26.7%）。看護師の自己教育性尺度の総得点（平均±標準偏差）は<math>105.1 \pm 17.6</math>点であり、下位尺度得点別では第1因子が<math>43.7 \pm 9.7</math>、第2因子が<math>42.9 \pm 5.7</math>、第3因子が<math>18.5 \pm 4.7</math>であった。重回帰分析の結果、看護師の自己教育性尺度の総得点には「職場で役割を担うことに負担を感じる」が最も影響度が高く、有意に負の関係であった。また、「看護師としての自分を応援してくれる家族がいる」「自分を認めてくれる上司、先輩、同僚がいる」「職場には、互いに刺激しあえる先輩、同僚がいる」「職場内での役割の有無」「チームで連携して仕事に取り組んでいる」「院内で行われている研修は学びやすい」が有意に正の関係であった。</p> <p>本研究により、信頼性・妥当性の高い看護師の自己教育性尺度が開</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2 学位論文</b>				
2. 看護師の自ら学ぶ意欲の評定尺度の作成と中堅看護師の意欲に関連する要因の検討	単	2018年3月	武庫川女子大学大 学院看護学研究科 (修士課程)	発された。看護師の自己教育性には、他者からの内省支援・精神支援、他者との社会的相互作用による学ぶ機会が看護師の自己教育性を高める要因であることが示された。 看護師の自ら学ぶ意欲を測定する尺度を作成し、その信頼性・妥当性を検討し、作成した尺度を用い中堅看護師における自ら学ぶ意欲と個人要因、環境要因、社会要因との関連を明らかにすることを目的として、公立急性期病院1施設の看護師を対象に看護師の自ら学ぶ意欲と看護師の自ら学ぶ意欲に関連する要因について無記名自記式質問紙調査を行った。その結果、【看護の学習が楽しい】【認められたい気持ち】【充実感と挑戦】【自ら学ぶ行動】の4因子22項目から構成される看護師の自ら学ぶ意欲の評定尺度を作成され、評定尺度の信頼性は一貫して高く、基準関連妥当性も示された。また中堅看護師の自ら学ぶ意欲に関連する要因として「職場での役割負担」が自ら学ぶ意欲の低下と関連していることが示唆された。
<b>3 学術論文</b>				
1. 大規模病院に勤務する看護師の自己教育性に関連する要因の検討（査読付き）	共	2024年3月	日本看護科学会 誌, 43, 776-787	大規模病院に勤務する看護師の自己教育性に関連する要因を明らかにすることを目的に78施設の看護師5,636名を対象とし無記名自記式質問紙調査を実施した。調査は看護師の自己教育性尺度27項目と先行研究より選定した個人特性6項目と職場特性21項目である。分析は看護師の自己教育性を目的変数、個人特性、職場特性を説明変数とし重回帰分析を行った。その結果、有効回答1,446名を分析した結果、看護師の自己教育性尺度の総得点および下位尺度の得点には看護師経験年数、支えてくれる家族の存在、介護経験、職場の内省支援・精神支援、役割付与・役割認識、職場の学習環境が有意に関連していた（p < 0.05）。他者からの内省支援・精神支援、他者との社会的相互作用による学ぶ機会が看護師の自己教育性を高める要因であること、承認や役割付与が高める要因である一方で、低下させる要因もあることが示された。
2. 看護師の自己教育性尺度の開発（査読付き）	共	2023年3月	日本看護科学会 誌, 42, 850-860.	共同著者：野寄亜矢子、清水佐知子 本研究は、看護師の自己教育性尺度の開発を目的に行った。概念分析より抽出した看護師の自己教育性の属性より看護師の自己教育性尺度項目を作成し、内容妥当性を検討し尺度原案62項目からなる質問紙を作成した。300床以上の医療施設に勤務する看護師1,080名に質問紙調査を実施し、尺度の信頼性と妥当性を検証した。その結果、416名から回答が得られた。そのうち、259名を因子分析の対象とした。因子分析の結果、《自ら学ぶ力》《省察する力》《看護への興味と仕事の充実感》の3因子27項目が抽出された。尺度の信頼性の検討では、Cronbach's $\alpha$ 係数.945、再テスト法による級内相関係数.858であった。妥当性については、構成概念妥当性と基準関連妥当性で確認された。
3. 急性期病院に勤務する中堅看護師の自ら学ぶ意欲に関連する要因の検討（査読付き）	共	2020年	武庫川女子大学看 護学ジャーナル, 5, 33-42.	共同著者：野寄亜矢子、清水佐知子 急性期病院に勤務する中堅看護師の自ら学ぶ意欲と個人・環境・社会要因との関連を明らかにすることを目的とし、公立急性期病院1施設の経験年数5年以上25年未満の役職者以外の看護師201名を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。看護師の自ら学ぶ意欲は野寄、清水（2019）が構築し信頼性、妥当性を確認した22項目から構成される「看護師の自ら学ぶ意欲の測定尺度」を使用した。測定尺度の総得点および下位尺度得点を従属変数、個人・環境・社会要因の各項目を独立変数とし重回帰分析を行った。結果、自ら学ぶ意欲の総得点で環境要因「職場で役割の負担がある」が負の方向で有意であった（p < 0.05）。その他の変数で有意差はなかった。自律的な学習意欲の下位尺度【認められたい気持ち】【充実感と挑戦】で環境要因「職場で役割の負担がある」が負の方向で有意であった（p < 0.01）。中堅看護師の役割負担が自ら学ぶ意欲に関連すると示唆された。
				共同著者：野寄亜矢子、清水佐知子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
4. 看護師の自ら学ぶ意欲の評定尺度の作成（査読付き）	共	2019年	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 4, 25-35.	<p>看護師の自ら学ぶ意欲を測定する尺度を作成し、その信頼性・妥当性を検討した。公立急性期病院1施設305名の看護師を対象に櫻井（2009）の構築した大学生用「自ら学ぶ意欲の測定尺度」をもとに看護の独自性を考慮した上で新たな看護師用の項目を作成し、質問紙調査を行った。回答は6件法で求めた。最尤法・プロマックス回転による因子分析の結果、【看護の学習が楽しい】【認められたい気持ち】【充実感と挑戦】【自ら学ぶ行動】の4因子22の項目から構成される看護師の自ら学ぶ意欲の評定尺度を作成した。内的整合性を示す<math>\alpha</math>係数は尺度の総得点で0.947、下位尺度得点で0.843-0.890であった。尺度の妥当性は「資格」「役職」のそれぞれの有無と尺度得点の有意差検定を行った。その結果、総得点及び下位尺度得点全てで「資格」「役職」とともに有意差が示された（<math>p &lt; 0.05</math>）。以上より、評定尺度の信頼性は一貫して高く、基準関連妥当性も示された。</p> <p>共同著者：野寄亜矢子、清水佐知子</p>
<b>その他</b>				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. オンライン周手術期実習へのChallenge－新たな実習展開の構想－	共	2020年8月	東北SUN-2020-	<p>COVID-19の影響で基礎教育機関も混乱を生じている中、早期よりオンライン授業を開始した。その後、緊急事態宣言の発令に伴い、予定されていた「周手術期看護学実習」が臨地で行えない状況となつた。そのため、急性期看護学分野の教員5名で臨地実習と同じ2週間の看護過程が展開できるようにオンライン実習の準備を行つた。その結果、従来の臨地実習と類似した目標達成と同時に学生・教員共にこれまでの実習とは異なる学びを得ることができた。このような背景から、オンライン周手術期看護学実習のデザインと学生の反応をふまえたオンライン実習のメリット・デメリットについて紹介した。</p> <p>共同演者：船木淳、野寄亜矢子</p>
2. 学会発表				
1. COVID-19ワクチン接種業務経験後に再就職した潜在看護師の復職行動に至る要因の検討（第1報）	共	2023年12月	第43回日本看護科学学会学術集会	<p>2019年、COVID-19パンデミックによる全国一斉のワクチン予防接種に伴い復職した潜在看護師は、看護師としての遂行能力の可能性を実感し保健医療福祉を支える専門職者として更に復職したと推測する。そこで、本研究は潜在看護師の復職過程を可視化するモデル作成の基礎資料として、COVID-19ワクチン接種業務に従事した潜在看護師の特徴を明らかにすることを目的と行った。全国の自治体が運営する集団接種会場でワクチン接種業務経験が一度でもある看護師694人に無記名自記式質問紙調査を行つた。</p>
2. COVID-19ワクチン接種業務経験後に再就職した潜在看護師の復職行動に至る要因の検討（第2報）	共	2023年12月	第43回日本看護科学学会学術集会	<p>共同発表者：片山恵、伊山聰子、野寄亜矢子、清水佐知子      COVID-19ワクチン接種業務経験後に再就職した潜在看護師の復職行動に至る要因として、ワクチン接種業務に対する満足感・達成感と動機づけおよび自己効力感の関連について明らかにすることを目的し行つた。全国の自治体が運営する集団接種会場でのワクチン接種業務経験が一度でもある看護師694人に無記名自記式質問紙調査を行い、ワクチン接種業務に対する満足感と達成感、看護師の成長動機づけ尺度24項目、特性的自己効力感尺度23項目を調査した。Kellerの動機づけとパフォーマンスのマクロモデル（Keller, 2009）を参考に仮説モデルを作成しパス解析を行つた。</p>
3. 看護師の自己教育性に関する要因の検討	共	2023年12月	第43回日本看護科学学会学術集会	<p>共同発表者：伊山聰子、片山恵、野寄亜矢子、清水佐知子      本研究は看護師の自己教育性の関連要因を明らかにし、看護師の自己教育性の維持・向上につながる支援の在り方の示唆を得ることを目的として、全国の一般病床300床以上の施設を地域・病床規模別に層化抽出した437施設のうち、研究参加の同意を得た78施設の看護師5,636名を対象とし無記名自記式質問紙調査を行つた。</p> <p>共同発表者：野寄亜矢子、清水佐知子</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
4. 看護師の自己教育性尺度の開発	共	2022年12月	第42回日本看護科学学会学術集会	看護師の自己教育性測定尺度を開発し、尺度の信頼性・妥当性について検討した。因子分析により3つの因子構造が示された。目標を設定し、目標を達成するための能動的な学習行動が《自ら学ぶ力》の項目に示され、成人群の特徴と合致していると言える。
5. コロナ禍における卒業時看護技術到達度の実態調査	共	2022年9月	第7回神戸看護学会	共同発表者：野寄亜矢子、清水佐知子 2019年末以降猛威を振るっているCOVID-19により、看護基礎教育では臨地実習が制限され、通常臨地で体験可能な看護技術の多くを体験できない状況が生じている。そこで本研究の目的は2020年度および2021年度神戸市看護大学の卒業生の看護技術体験の実態を調査し、看護技術到達度を明らかにすることとした。
6. COVID-19軽症者療養施設に従事する看護職者の心理社会学的状態と職務困難感：質問紙調査	共	2021年12月	第41回日本看護科学学会学術集会	共同発表者：新澤由佳、船越明子、池田清子、高田昌代、宇多みどり、野寄亜矢子、秋定真有、清水千香 A県内のCOVID-19軽症者療養施設に勤務する看護職の心理社会状態と職務困難感について明らかにすることを目的に、A県のCOVID-19軽症者療養施設(以下施設)に勤務する看護職を対象に無記名質問紙調査を行った。調査内容は基本属性、心理社会学尺度(Hospital Anxiety and Depression Scale : HADS, Perceived Stress Scale : PSS等)と自由記載で職務困難等を調査した。施設勤務看護職は、感染リスク、電話での観察で症状悪化の有無を判断することに不安やストレスを感じており、感染対策や症状悪化時の判断基準や連携方法の整備が必要であると示唆された。
7. Questionnaire survey of nurses engaged in accommodation facilities for mildly ill people who are positive for COVID-19 - Focusing on the motivation, fulfillment, and rewardingness of nurses-	共	2021年8月	3rd Technological Competency as Caring in the Health Sciences 2021	共同発表者；水川 真理子、岩本 里織、野寄 亜矢子、西村 康子、高田 大樹、藤岡 神奈、山本 陽子、清水 千香、畠中 あかね、片倉 直子、堤 典江、横田 香七恵 In this report, we focused on the free description of the following in the survey form: motivation to work at facilities, reasons for continuing work, and job satisfaction and fulfillment. A qualitative descriptive analysis was performed. Three notable descriptive responses obtained from participants about the motives for working in the facilities include social contribution, opportunity to learn new infectious diseases, and less anxiety than working at a hospital. This survey revealed that nurses who had quit their jobs decided to work in this new facility to fill the nursing shortage and learn about infectious disease nursing.
8. 急性心不全患者の便秘に対する循環器病棟看護師の認識と看護ケアの実態	共	2020年10月	第17回日本循環器看護学会学術集会	共同発表者；Mizukawa Mariko, Iwamoto Saori, Noyori Ayako, Nishimura Yasuko, Takada Hiroki, Fujioka Kanna, Yamamoto Yoko, Shimizu Chika, Hatanaka Akane, Katakurra Naoko, Tsutsumi Michie, Yokota Kanae. 循環器病棟看護師が急性心不全患者の便秘ケアを実施するまでの根拠の実態を明らかにすることを目的として、全国の循環器病棟に所属する看護師を対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。患者の重症度別に看護師が実施する便秘ケアの認識について自由記述で求め、記述内容を質的帰納的に分析した。急性心不全患者の便秘ケアの根拠として《心負荷の予防・軽減をするため》《腸蠕動を促進するため》《アセスメントにより適切なケアであると考えるから》などの7つのカテゴリーが抽出され、重症度別に捉えた場合、重症度が高いほど心負荷の予防・軽減をするための根拠に基づいて便秘ケアを実施していた。重症度が低くなるほど患者をアセスメントし、より適切なケアを選択して便秘ケアを実施していた。急性心不全患者において便秘ケアは心負荷の予防のために重要なケアであり、患者の回復過程に応じた看護ケアの選択が重要である。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
9.Relationship between nurses' motivation for self-learning and years of experience at an acute hospital	共	2020年1月	EAFONS 2020 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars	<p>樹, 江川幸二</p> <p>The study is clarify the motivation for self-learning in nurses working at an acute care hospital by their years of experience as nurses, thereby analyzing their motivation for self-learning. The rating scale f by Noyori (2019) was utilized, after restructuring the scale for use in nurses, who are adult learners, after obtaining Sakurai's approval. The Kruskal-Wallis test was performed to assess the difference between the rating scale total scores and the subscale scores by years of experience. The measurement scale's Cronbach's <math>\alpha</math> coefficient was 0.947 for the scale's total scores and 0.843 to 0.890 for the subscale scores. According to the comparison by years of experience, the total scores for the nurses' motivation for self-learning were significantly higher (<math>p&lt;0.01</math>) in nurses with 25 or more years of experience than in nurses with one to four years of experience and nurses with 10 to 14 years of experience.</p>
10.急性期病院に勤務する中堅看護師の自ら学ぶ意欲に関連する要因の検討	共	2018年12月	第38回日本看護科学学会学術集会	<p>共同発表者 : Ayako Noyori, Sachiko Shimizu</p> <p>中堅看護師は役割過多やライフイベントの変化により、自律的な学習意欲を下げている可能性があると言われている（関, 2015；能美, 2014）。しかし、自律的な学習意欲と関連要因との関連は実証的に明らかにされていない。そこで本研究は、急性期病院に勤務する中堅看護師の自ら学ぶ意欲と個人・環境・社会要因との関連を明らかにすることを目的として、公立急性期病院1施設に所属する経験年数5年以上25年未満の看護師201名を対象として無記名自記式質問紙調査を行った。自ら学ぶ意欲の総得点は<math>83.0 \pm 11.4</math>点であり最小値47.6点、最大値113.2点であった。回帰分析の結果、自ら学ぶ意欲の総得点で環境要因「職場で役割の負担がある」が負の方向で有意であった (<math>p&lt;0.05</math>)。その他の変数では有意差はなかった（自由度調整済み決定係数0.296）。自ら学ぶ意欲の下位尺度「認められない気持ち」〔充実感と挑戦〕では環境要因の「職場で役割の負担がある」が負の方向で有意であった (<math>p&lt;0.01</math>)。</p>
11.看護師の自ら学ぶ意欲の評定尺度の作成	共	2018年3月	日本看護研究学会 第31回近畿・北陸地方会学術集会	<p>共同発表者 : 野寄亜矢子, 清水佐知子</p> <p>本研究は、看護師の自ら学ぶ意欲を測定する尺度を開発し、その信頼性・妥当性を検討することを目的として公立の急性期病院を対象施設に305名の女性看護師に無記名自記式質問紙調査を行った。看護師の自ら学ぶ意欲の測定項目30項目は、櫻井（2009）の構築した大学生用「自ら学ぶ意欲」において「欲求（知的好奇心・有能さへの欲求）」「学習行動（深い思考・独立達成・積極的探求）」「認知・感情（おもしろさと楽しさ・有能感）」の下位概念をもとに看護師用に再構築し、調査項目とした。回答は、6件法で求めた。評定尺度の項目分析は、最尤法、プロマックス回転による探索的因子分析を行った。4因子22項目からなる「看護師の自ら学ぶ意欲の評定尺度」が作成できた。<math>\alpha</math>係数は、評定尺度の総得点では.947、下位尺度得点は.843～.889であった。また、外的基準として設定した資格の有無および役割の有無の差を算出した結果、両者とも尺度の総得点および下位尺度得点で有意差を示した (<math>p&lt;.05</math>)。</p>
12.人材育成を目的とした主任面談のスタッフへの影響	共	2017年	第48回日本看護学会（管理学会）学術集会	<p>共同発表者 : 野寄亜矢子, 清水佐知子</p> <p>スタッフの人材育成を目的として、病棟長による目標管理面談に加えて、スタッフにより身近な存在である病棟主任による面談を取り入れた。人材育成の一環として施設で独自に作成した看護業務に関するチェックリストを活用し面談を行うことでスタッフの教育的支援につなげるために、主任面談がスタッフにどのような影響があったのかを明らかにした。</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				共同発表者：野寄亜矢子、山本由美、音地真理、松浦千佐子、渡辺かつ子、林由美
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 医療教授システム学会 事例検討会	単	2024年4月～現在	医療教授システム学会 事例検討会	医療教授システム学会が主催する事例検討会において授業設計のプラッシュアップを目指し、事例検討会での発表を行った。 野寄亜矢子、
2. 若手研究者のつながりと発信JANS若手の会エリア・コーディネーターの活動	共	2023年4月	医学書院、看護研究 56 (2) , 132-134	共同執筆；吉川あゆみ、飯田恵子、伊東由康、岡本留美、野寄亜矢子、和辻雄仁
3. Clinical Study 8月号 3 STEPで学ぶ！疾患Basic Study「胃がん」		2021年8月	メヂカルフレンド社, Clinical Study (クリニカルスタディ) , 17-34.	実習で遭遇する疾患の1つとして胃がんで腹腔鏡下胃幽門側切除術を行った患者の情報収集から看護過程の展開までを解剖整理から術式、手術侵襲および周手術期における看護問題をふまえて解説した。
4. Clinical Study 12月号 3 STEPで学ぶ！疾患Basic Study「前立腺がん」		2020年12月	メヂカルフレンド社, Clinical Study (クリニカルスタディ) , 18-34.	監修：畠中あかね、船木淳／執筆：野寄亜矢子 実習で遭遇する疾患の1つとして前立腺がんでロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術（RALP）を行った患者の情報収集から看護過程の展開までを解剖整理から術式、手術侵襲および周手術期における看護問題をふまえて解説した。
5. 看護展望 11月号 オンライン周手術期看護学実習の実際	共	2020年11月	メヂカルフレンド社, 看護展望, 34-39.	監修：畠中あかね、船木淳／執筆：野寄亜矢子 神戸市看護大学での周手術期看護学実習において新型コロナウイルス感染拡大に伴い臨地での実習が実施できなくなったことから取り入れたオンライン実習の概要について解説した。 本人担当分：オンライン周手術期看護学実習の実際について 共同執筆；船木淳、和田知世、野寄亜矢子、高田大樹、江川幸二
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 認知症高齢者の特徴を踏まえた看護実践のためのキャリア初期看護師支援プログラム開発	共	2024年4月	科学研究費助成事業 基盤研究C (2024年4月～2027年4月)	共同研究者：中筋美子（研究代表者），野寄亜矢子、森嶋道子、荻野待子、久米弥寿子、重信有紀
2. キャリア中期にある看護師の自己教育性の変化に関する経時的調査	共	2024年4月	科学研究費助成事業 基盤研究C (2024年4月～2026年4月)	共同研究者：野寄亜矢子（研究代表者），清水佐知子
3. 急性期病院における高齢慢性心不全患者への退院支援看護師の看護実践	共	2021年	神戸市看護大学 共同研究助成（2021年4月～2022年3月）	高齢慢性心不全患者が再入院を予防しながら、自宅で安心して生活ができるよう支援するには早期から地域と連携・協働した入退院支援・在宅移行支援が求められている。しかし、看護師が高齢慢性心不全患者の在宅移行支援においてどのようなことを考え、患者の療養環境を調整しているのかは明らかになっていない。そこで、退院支援看護師に着目し、退院支援看護師が行う高齢慢性心不全患者の在宅療養環境を調整する看護実践を明らかにし、看護師が高齢慢性心不全患者の在宅移行支援を考察することである。
4. 急性心不全患者に対する循環器病棟看護師の便秘ケアの実態に関する全国調査	共	2020年	神戸市看護大学 共同研究助成（2020年4月～2021年3月）	共同研究者：野寄亜矢子（研究代表者），若林侑起、船木淳、平野通子、畠中あかね、江川幸二 慢性心不全などで入院した循環器疾患患者の便秘管理は、これまであまり着目されていない。介護施設や高齢者施設を対象にした排便管理に関する実態調査研究はあるものの、一般病棟における心不全患者や心疾患の排便管理に関する実態調査ではなく、急性心不全の便秘に対してどのような看護介入がなされているか明らかにされていない。そこで、本研究は循環器病棟に勤務する看護師の急性心不全

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
5.新型コロナウイルス軽症者療養施設に従事する看護職者の職務困難感と心理社会的状態：探索的混合研究法	共	2020年	神戸市看護大学 共同研究助成（2020年4月－2022年3月）	<p>患者の便秘に対する認識と看護ケアの実態を明らかにすることを目的とし、全国の循環器病棟の看護師を対象とした無記名自記式質問紙調査を実施した。</p> <p>共同研究者：野寄亜矢子（研究代表者）、若林侑起、船木淳、平野通子、高田大樹、江川幸二 2019年12月に中国武漢市で初めて確認された新型コロナウイルス（COVID-19）感染症は、世界中で猛威をふるい、最前線で感染症患者の診断や治療に携わる武漢市の女性看護師は、他地域よりもうつや不安の症状がより強くみられたとの報告がある（Lai et al., 2020）。そこで、本研究は新型コロナウイルス感染症患者が療養する、兵庫県内の軽症者宿泊療養施設に勤務する看護師または保健師（以下、看護職）の職務困難感と心理社会的状態について明らかにすることを目的とし、職場環境や精神衛生状態の改善策を探る基礎資料とすることである。 本人担当分：統計解析</p>
6.急性期病院に勤務する看護師の自律的学習意欲の構造化と尺度開発	共	2020年	科学研究費助成事業 基盤研究C（2020年4月－2024年3月）	<p>共同研究者：水川真理子（研究代表者），岩本沙織、野寄亜矢子、西村康子、高田大樹、藤岡環奈、山本陽子、清水千香、畠中あかね、片倉直子、堤美知恵、横田香苗 看護師の自律的な学習意欲を測定する既存の尺度はいくつか存在するが、対象とする集団の違いや尺度の統計的信頼性・妥当性の低さなどからそのまま看護師に適応することが難しい。本研究は、急性期病院に勤務する看護師の自律的学習意欲の構造を明らかにすることである。</p> <p>共同研究者：野寄亜矢子（研究代表者），清水佐知子</p>

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年7月～現在	医療教授システム学会主催 医療IDセミナー 養成LA
2.2023年10月～現在	明和病院 新人看護師・指導者 フィジカルアセスメント研修講師
3.2023年9月1日	兵庫県看護協会 復職支援3日間研修コース 講師
4.2020年4月～現在	日本看護科学学会 若手の会 関西エリアコーディネーター
5.2020年3月～2020年11月	第4回 神戸看護学会学術集会 企画委員
6.2019年7月	第13回 日本慢性看護学会学術集会 実行委員